

A modern wooden observation tower with a large, flat, light-colored roof and a wooden deck, situated on a rocky hillside overlooking a city and water. The structure features a wide, open deck with a metal railing and a central wooden enclosure. The background shows a cityscape and a body of water under a blue sky with clouds.

間もなく完成の予定です。
(H25.11.22
撮影 末原
義秋)

日時：平成 25 年 12 月 7 日(土) 15:30~17:00 頃まで
場所：紅葉谷公園 山村茶屋

瀬戸内海環境保全功労者表彰を受賞

— 環境省主催 —

当会は、この度環境省主催の標記表彰をいただきました。去る7月に国土交通省からいただいた海事功労者表彰につづく快事です。



表彰状を受ける村上会長

表彰は、9月7日高松市で、瀬戸内海環境保全特別措置法制定40周年記念式典として行われ、瀬戸内海の環境保全に功績があった団体個人に、環境大臣表彰（11名）、環境保全知事会議議長表彰（12名）が授与されました。当会からは私が出席させていただき、壇上で井上副大臣から賞状（議長表彰）をいただきました。

なお本件については、これまでの宮島での活動を踏まえて、廿日市市の推薦をいただきました。

これからも当会に繋がる関係者や地域の方々のご期待に沿えるよう、これまで同様に地道に活動を続けていきたく、皆様方のご理解とご協力をお願いします。

（村上 光春）



西 自然保護官*から祝辞メール

お元気でしょうか。

先日の土曜日、瀬戸内法制定40周年記念式典があり、当方は副大臣の案内対応で出席しました。その際に、団体表彰があり、村上会長が表彰を受けているところをみました。宮島PVの功績がここでも認められ、当方も関係者としてうれしかったです。

その後すぐ案内で会場を後にしたため、会長へはお声がけできませんでした。

皆さまのご健勝をお祈りします。

（注*：平成22年4月1日付で広島から松山自然保護官事務所に転任、現在、高松事務所勤務）

入浜定点観察⑥ 兼公募観察会下見

日 時：9月7日(土) 9:30~15:00

参加者：小川 川崎 黒木 小林ペア 坂本
佐藤(佐) 末原 中道 野呂田 舛田 山崎
横路 六重部

数日前の台風による大雨で包ヶ浦から入浜に至る道路にはかなり山水が溢れていた。途中、スズメバチに何匹か出会った。この時期は、花はないがソヨゴ、ツバキ、ウラジロマタタビ、ハスノハカズラ・・・など多くの実があり、観察会で紹介できそうで安心した。入浜池の奥（金網付近）は水溜りができており、観察会では池周りの一周はしないことにした。池に流入する山水の量も多く、海水入口の砂浜の形状が大きく変化していた。鷹ノ巣低砲台の見学は見学者の疲労を考え、昼食後の帰路に立ち寄ることにした。入浜から腰細浦への登り道のマツの枝に大きなスズメバチの巣があり観察会では最も注意が必要。（川崎）



スズメバチの巣

公募観察会②

(包ヶ浦～入浜コース)

日 時：平成 25 年 9 月 14 日 (土)

9:20～15:30

参加者：岩崎 大西 小川 川崎 北野 黒木
小林ペア 坂本 佐藤(佐) 佐藤(庸) 島 末原
兎谷 中道 舛田 松田 村上 山崎 横路
呼坂 六重部

環境省： 榊自然保護官 大高下 AR

開会の挨拶が長すぎると独り言を言っていた人がいましたが、**公募参加者 44 名**で 9 時 20 分に包ヶ浦を出発しました。思いのほか若い人や家族連れが参加しており良かったと思います。

私はグループ⑤ (9 名) に帯同しました。小林みどりさんの軽快なお喋りで、終始和気あいの雰囲気でお観察会が進んでいきました。一生懸命メモを取ったり、写真撮影したりする人がいるかと思えば、説明はそっちのけで自分たちの世界に浸っていたカップルもいましたが、参加することに意義があると思うので、「まあいっか」と思いました。

日陰は涼しかったが、全般的に蒸し暑かつ



たので、水分補給が欠かせませんでした。参加者の中で、後半、手持ちの水が切れた人もいたので、もっと事前に周知する必要があったと感じました。

昼食後のミヤジマトンボ等の話は、みんなが興味深そうに聞いていたので、いい企画でした。

帰路、中道さんの案内で鷹ノ巣低砲台に立ち寄りしましたが、牡蠣殻の海岸はある意味きれいだなと思いましたが、自然に返してもい

いのかなとも思いました。牡蠣殻の山が出来ているところも見たいです。

終盤、足が疲れた方もあったようですが、これといったトラブルもなく会が終了してよかったと思います。(兎谷 清博)

92%の参加者がほぼ満足

—アンケート結果—

今回の観察会において、参加者全員にアンケート用紙を渡し、36 名の方から回答がありました。(回答率 82%)

その結果を簡単にまとめると以下のようになります。詳細な分析結果は舛田会員にお問い合わせください。

1. 今回の特徴は 20 代の参加者が 5 人もいたことです。大学の卒業論文の研究の参考にするためとのことでした。
2. 30～70 代の方は、宮島の歴史や自然をもっと知りたい、体を動かしたい等の目的で参加した方が多いようです。
3. 当会の観察会に 2 回以上参加された方が 42%いました。
4. 今回の行事に対する感想として、「満足」と「やや満足」を合わせると 92%の方がほぼ満足して帰ったようです。又の機会に再度参加したいとの意見もかなり多く見られました。
5. 今後の参考として、少数ながら次のような意見もありました。



- 池の生き物の観察時間をもっと長く
- トンボ以外の話をもっと聞きたい
- ミヤジマトンボの詳しい教科書が欲しい
- 班により説明内容に差異がある
- 地図で予定がわかればよかった
- もっと涼しい時期がいい
- なるべく多くの人が参加できるよう
- 9:00 集合、9:30 出発位になるとよい
- 少しきつかった (死にそー)

(川崎昭壽)

ハチクマの渡り観察

日時 9月17日(火) 9時～12時

場所 佐伯運動公園駐車場

参加者 岩崎 大西 川崎 小林(勗) 小林(寛)
近藤

前日までは日本各地、特に関西地域を含めて関東にかけて竜巻の発生や豪雨による大災害が起きていました。「タカの渡り」観察会に参加できる状況に感謝しながら、車を走らせました。

平日ということもあって、集合したのはわずか6人でした。

早速、近藤さんから、「観察日を決めるのは難しい。最近の天候が、渡りのタカにどのように影響しているのか関心を持って今日の様子を見守りたい」と挨拶があり開始となりました。

最初に見られたハチクマのそばには小さな鳥が絡むように並んで現れました。ハチクマ以上に白っぽくて綺麗です。目を奪われて「あれは何??」っと、鳥の方向に私たちも向き合ってしまった。鳥の方向に私たちも向き合ってしまった。ツミという小さなタカでした。

大きな集団ではありませんでしたが、ハチクマが豆粒状態で現れ、近づくごとに大きく鮮やかに目に映ってきます。更に、上昇気流をとらえると旋回しながら一定の場所で高度を上げてゆきますが、その様子を見上げているうちにバラバラに飛んでいたハチクマが自然に集まって円を描く柱のように見えます。その様子を目の当たりにすると、思わず感動の声があがり、メンバーがひとつになった瞬間でした。

その後に、意外にも、サシバの小さな群れがかなり低い位置を渡って行きました。

幸運にもその瞬間を写真に写すことができました。早速、拡大した画像を見ていただき、透き通った翼の美しさと尾羽の縞模様を皆で確認して盛り上がりしました。

その後、更に姿を追って確認できたのはノスリ!

最終的に総数は多くはありませんでしたが、忍の一字の待ちの時間のなかで、突然「あっ、来た!!」「ハチクマだ!!」「あら?サシバ!!」

悠々と飛ぶ姿、予期せぬ4種ものタカを確認できたことで、すっかり満足して、11時半には休息方々昼食タイムとし、賑やかに解散しました。

ただ、初めて撮れたサシバの飛翔写真が、カメラの未熟な操作でいつの間にか消えてしまったのは何とも残念でした。6人の記憶の中に残っただけになりました。

確認できた鳥

ハチクマ 23羽, サシバ 7羽, ツミ 1羽, ノスリ 1羽
(大西 順子)

はつかいち環境フェスタ 2013

日時 10月6日(日) 10時～15時

場所 廿日市スポーツセンターサンチェリー

参加者 川崎 佐藤(佐) 末原 野呂田

平田(広) 舩田 村上

廿日市市の環境保全イベント第2回「はつかいち環境フェスタ2013」に参加しました。



展示準備完了

今回は、ラムサール条約登録1周年記念イベントで、宮島PVの活動状況と宮島の植物をパネル展示しました。宮島の植物の多さと美しさに感動された声が多く聞かれ、出品の意義を感じました。

スタンプラリーの対象コーナーにも選ばれ、来場者も多く、子供との会話も楽しめた一日でした。
(佐藤 佐十四)

入浜定点観察⑦ ・維持管理作業

日時: 10月12日(土) 9:00～12:00

天候: 晴

参加者: 岩崎 大西 小川 恩田 川崎

小林(勗) 佐伯 渋谷 錦織 松田 柳瀬 横路

● 環境整備

海辺のゴミの回収を行った。毎回のことな

がかなりのゴミが散乱していた。

● 水質調査 (小川さんの話)

全体的には水が汚れていた。CODはA地点で13mg/L、山際のD地点は5mg/L、塩分濃度は山側は当然0でした。道路側のB地点は0.4%、流れ出ているところF地点は0.33%でした。

● 野鳥 (大西さんのお話)

特に変わったものはありませんが季節的なヒヨドリの渡りが60羽見られた。確認できた鳥(ウグイス、ヒヨドリ、アオサギ、メジロ、コゲラ、セグロセキレイ、ハシブトカラス、トビ、キジバト、スズメ、ウミネコ)

● 昆虫 (松田さんの話)



タイリクアカネの♂と♀

季節的にはアカトンボが多く見られた。特にここを代表するリスアカネが非常に多く、タイリクアカネは産卵をしているところとか♂と♀がつながっているところの確認された。イトトンボの仲間でアオモンイトトンボ、ムスジイトトンボ特にアオモンイトトンボは年に2回ぐらい成虫が発生し秋の時期には非常に多くなることが各地でおきている。他にはギンヤンマ、ノシメトンボが確認できた。

(まとめ 小林 勲)

会員自主研修 似島歴史探訪

日時 平成25年10月19日(土)9:00~15:00
場所 広島市南区似島

参加者 小方ペア 川崎 黒木 小林ペア

小林(寛) 佐藤(佐) 佐藤(庸) 中道 平田(広)
村上 柳瀬 吉崎

明け方の雨も上がり、天気は曇り。9時前に宇品栈橋に集合。ここで、本日のガイドをして頂く川崎さん(みなみ区まち探検隊)の紹介があり、似島行きのフェリーに乗船しました。

到着したのは学園前栈橋で、右手に似島学園があり、旧陸軍検疫所跡地に立てられています。この学園に残る史跡を見て回りました。

最初に見たのは第2次世界大戦時のものである”一億一心”という石碑でした。当時の人口は日本本土が7000万人程度で、それ以外に台湾、朝鮮半島の人口をあわせると1億人近くになったとのこと。このときは本音はどうあれ、台湾、朝鮮半島も一体の国として考えられていたということがかいまみえて興味深いものがあります。

次に向かったのは学園の裏側に建つ後藤新平の銅像で、日清戦争後の帰国兵士や軍馬などの検疫所をこの島に設立したのがこの後藤新平だったとのこと。

その後、第2次大戦のとき銅像を軍に供出するのを避けるために3分割して埋めて隠し、戦後、掘り出して改めてつなぎ直したという歴史があり、つないだ痕跡が残っていました。



後藤新平の銅像

次に、学園の横にある弾薬庫址を見学しました。弾薬庫の入り口となるトンネルが残っていました。その奥は四方が石垣と盛り土で囲まれた土地になっていて、この中に弾薬庫が置かれていたとのこと。爆発事故などに備えた造りになっているのを実感できる史跡でした。

また、臨海少年自然の家あたりは、第一次大戦でのドイツ人捕虜収容所でした。捕虜のカール・ユーハイムが日本で初めてのバームクーヘンを焼いた場所です。

その一角に旧陸軍の馬匹焼却炉の一部が移設されています。これは旧陸軍の馬匹検疫所跡に市営住宅を建設する際に発掘されたものだそうです。(次頁に続く)

この後、臨海少年自然の家のバンガローがある周辺で昼食。周りには大きなどんぐりがたくさん落ちていて少し拾って帰りました。

昼食後、市営住宅の前をとおりすぎた先に原爆慰霊碑がありました。今までに見つかった遺骨はすべて広島市の平和公園にある原爆供養塔に納骨されていますが、この地でなくなられた方の冥福を祈り、平和への誓いを新たにするために建立されたものです。

この後は、似島漁港を目指して、島の南側の道路を歩きました。途中アケビを見つけて採取したりしま

した。海軍省の要塞地帯標石柱の近くにはクコの実がありました。最初は甘く感じられましたが、後からえぐみを感じ、少し後悔。



アケビ

最後に、軍用連絡トンネルを見学しました。このトンネルは震洋という特攻兵器の訓練生

が宿舎と海岸の行き来に使用していたもので、手掘りで作られたものだそうです。現在は手掘りの部分にもセメントが吹き付けられていて、手掘りの跡は見えなくなっています。



軍用連絡トンネル跡

今回の似島探訪は、広島市の一部になっている近くの島にこんなに多くの軍事施設の跡があったのかという驚きと原爆犠牲者の看護、その後の遺体処理などに島の人々の大変な献身があったことが伝わってきた感動がありました。(吉崎 俊)

紅葉谷公園

歩道補修・清掃

日時：10月26日(土) 9:00～12:00

場所：紅葉谷公園

参加者：岩崎 小方(嗣) 小川 奥田 恩田 釜谷 川崎 五石 小林ペア 佐藤(佐) 佐藤(庸)

渋谷 末原 兎谷 平田(広) 平野 宮本 三次 柳瀬 山崎 横路 吉崎
環境省：榊自然保護官



作業状況

当会及び宮島さくら・もみじの会の計37名による共同作業で、紅葉谷公園内の側溝の砂上げと清掃作業、樹木の枯木・枯枝の除去運搬作業(重量560kg)を実施しました。

大勢の参加者の作業により、園内はすっきりし、紅葉見物の方々に喜ばれることと思います。(末原 義秋)

樹木名板維持管理

日時：11月2日(土) 9:00～11:30

場所：ウグイス道～紅葉谷公園と大元公園～紅葉谷公園

参加者：岩崎 大西 川崎 菊村 北野 黒木 小林ペア 佐伯 末原 田中 兎谷 野呂田 舩田 村上 柳瀬 山崎 呼坂

環境省：大高下 AR

修学旅行生で賑わう宮島栈橋前広場に集まった参加者は、ウグイス歩道組とアセビ歩道組の2組に分かれ、樹木に取り付けた名板を点検した。毎年、実施しているにもかかわらず、樹木の生長は思いのほか早く、名板の取付位置が高くなりすぎているものもあった。

(川崎 昭壽)



名板の取付

大三島研修交流会

日 時 10月27日(日)

場 所 愛媛県今治市大三島島内(台^{うてな}海岸、
鷺ヶ頭山、安神山、大山祇神社)

参加者 足立 岩崎 奥田 川崎 北野 黒木

小林ペア 佐藤(佐) 末原 中道 野呂田

平田(広) 舛田 松尾 宮本 村上 横路

ご案内 「大三島の自然を守る会」13名

朝8時、過ごしやすい天候の下、宮島口を貸切バスにて出発。10時前に大三島支所に到着し、「大三島の自然を守る会」の方々と合流。小澤潤会長にご挨拶をいただき、「伯方塩業大三島工場」を見学の後、工場前の台海岸にてシバナ、チャボイ、カワツルモの「三大海浜植物」等を中心に観察。鹿の食圧がないシバナが立派に育ち見逃すメンバー続出。

近年当地の干潟ではアサリが減少し、マテガイが多くなったとのこと。花崗岩質で淡水が湧く台海岸河口付近には、シラウオが上り、他の島では高度200mごとの植生の推移が数十センチごとに観察できる。また、か細い芝のようなチャボイは、「プラントオパール」として放射性物質等をも長年くるんでしまう不思議な力がある等、興味深い解説を聞く。

再びバスに乗り、浦戸^{うらど}地域にて、過日の台風の塩分で枯れた水田そばの水路のイトクズモ等を観察。

希少種となったナゴヤダルマガエルの保全のために20年ぶりに復活した休耕田は、ホシクサやトノサマガエル等の豊かなビオトープになったとの話に幼き日の田園風景を想う。

鷺ヶ頭山を途中までバスで登り、自然研究路を歩き、安神山頂から瀬戸内海の多島美を見渡しながらか、13時半ごろより昼食。

観察された植物は、ソヨゴ、ヤマハッカ、リュウノウギク、オトコエシ、オケラ、イブキシモツケ、センブリ(ムラサキセ



キキョウ

ンブリは時季が早く見られず)、サルトリイバラ、ナツハゼ(実)等、特にキキョウの花の美しい色は、何度カメラを向けてもなかなかうまく撮れず。

15時前に下山し、藤公園前駐車場にて「守る会」の方と別れ、守る会の赤尾卓(たかし)様に引き続き鷺ヶ頭山を神体山とする大山祇神社をご案内いただく。

境内にはマツバランを垂らした国の天然記念物「大山祇神社のクスノキ群」があり、樹齢2,000年以上の巨木の太木等に目を見張る。今回は多くの観光客が見過ごす奥の院までを丁寧に参拝。



観光客が見逃す奥の院

多くのメンバーが道の駅にて「塩アイス」を楽しみ、家族へのお土産を購入し、17時頃広島に向かって出発。

日帰りの日程にも関わらず、地元の守る会の方の厚い「お・も・て・な・し」と、事前に下見までされた舛田会員のコーディネートで、自然から歴史、文化まで充実した旅程を安全かつ予定時刻通りに終える事ができました。

帰りのバスの中では、参加会員一同が舛田会員に感謝すると同時に次回もぜひお願いしたいと要望しました。

安神山山頂にて



(文・写真 松尾健司)

連載中の「宮島二流記」は紙面の都合で次号(55号)に掲載します。

公 募 観 察 会 ③**(包ヶ浦自然歩道コース)**

日時：11月16日(土) 9:00～14:00

場所：包ヶ浦公園～包ヶ浦自然歩道～博打尾～
紅葉谷公園

参加者：小方 金山 川崎 北野 小林ペア 坂本
佐渡 佐藤(佐) 島 兎谷 中道 平田(攻)
平田(広) 舩田 宮本 村上 山本 横路 呼坂
六重部

環境省：柴原自然保護官 大高下 AR

公募参加者：22名

山腹に点々と見える真っ赤なハゼノキが見
事で、その葉が山道を真っ赤な絨毯に変えて
いると

ところも
ありま
した。
博打尾
の手前
の広場
で昼食
の後、



お待ちかねの「厳島合戦」の紙芝居。中道さ
んの愉快なお話に眠気も吹き飛びました。紅
葉谷公園に下りると「紅葉狩り」の観光客で
ごった返してしていました。猛暑をしのいだイロ
ハモミジやオオモミジが、例年よりやや早く紅
葉しているように思いました。

宮島の自然と歴史を一度に楽しめた晩秋の
一日でした。(川崎 昭壽)

観音山(極楽寺山) 魅力再発見講座**観音台公民館協力行事**

日時：11月24日(日) 9:00～15:00

場所：広島市/廿日市市境 観音山(極楽寺山)

参加者：岩崎 大西 小方ペア 川崎 北野

小林ペア 坂本 村上

観音台公民館：北林館長

11月11日の下見に続き、24日に公募参加者
14名を案内して、登りはどんぐりが敷き詰め
られた観音台コース、下りは小石が一杯の屋
代コースを歩き、里山の魅力を満喫しました。
昼食後の極楽寺縁起(村上)、柿の渋み(北野)、
鳥と植物(大西)、マツとフィボナッチ数(小方)
などユニークな話も魅力的でした。(川崎)

イフェさんからのお願い

ナイジェリア出身の留学生、イフェさん(通
称)から本年7月の厳島神社前海滨清掃活動
に参加した際の感想とお礼状が届きました。
原文(日本語)のまま紹介します。

自己紹介

ナイジェリアから来ましたカヨデ・イフェ
オルワです。5人家族の長女で弟と妹がいま
す。趣味は旅行、音楽鑑賞、ダンス、パドミ
ントンです。毎日新しいことを学びながら、
日本での生活を楽しんでいます。みなさんを
はじめ、多くの人々と出会えてとても幸せで
す。

日本に来たのは2012年の4月でした。現
在は広島大学大学院、総合科学研究科博士課
程に在籍していますが、2012年10月から2013
年9月まで1年間、広島市立大学で研究生と
して、中島教授の下で研究を行いました。

宮島は国立公園として自然が保護され、美
しい景観を持つだけでなく、独自の文化も残
っているので、宮島での研究には以前から強
く関心を持っていました。

広島市立大学では、「宮島に伝わる環境保
護の知恵とエコツーリズムの発展」というテ
ーマで研究しました。現在は「地域住民の自
然観光マネジメントへの参加ー日本とナイ
ジェリアの事例から」というテーマで研究を
行っています。

清掃活動の感想

最初に、7月22日の清掃活動への参加を許
可してくれたボランティアメンバーの皆さん
にお礼申し上げます。宮島伝統の管絃祭に備
えての清掃活動に参加できたことを誇りに思
っています。

多くの観光客が訪れる宮島の環境を守る
上で、ボランティアによる清掃活動は重要な
役割を担っていると思います。

清掃活動の後には、厳島神社で神主さんに
導かれてお参りする機会にも恵まれました。
こうした経験はめったにないことなのでとて
も嬉しく思っています。また次の清掃活動に
参加できることを心待ちにしています。

倒壊！十四丁町石 — 大 聖 院 道 —

遊女石畳
と堰堤の間
に建ってい
た十四丁町
石が斜面に
真逆さまに
倒れている
もともと平
成 17 年の



倒壊した大聖院道十四丁町石

土石流災害でこの辺り一面が崩落し、登山道が付け替えられた際、この場所に立て直されたもの。急斜面の脆いまさ土の危うい場所なだけに下の川に滑り落ちる危険な状況で心配だ。

(岩崎 義一)

PVは全国で活動している---北海道で



大雪山国立公園パークボランティア東倉氏と(旭岳山頂にて)

この夏は大雪山・黒岳から旭岳縦走に出かけた。旭岳山頂で 360 度の雄大な展望を楽しんでいたところ偶然にも話したのが大雪山国立公園パーク

(岩崎 義一)

秘かな”頑張り”に大きな評価

会員 柳瀬佳史さんと言え、当会のボランティア作業に、弁慶のように「七つ道具」を背に（最近是小振りですが！）登場する姿が印象的です。

ご本人が会長を務め、約 40 年続く「翠町学区老人クラブ第三翠友会」では、子供会との夏休み公園清掃、週 4 回のゴルフ練習場前清掃などの活動が評価され、国土交通大臣から感謝状を授与されています。

また ある会社の協力を取り付け、宮島の鷹ノ巣砲台跡から入浜池までの踏み分け道沿いに放棄してあった電柱・支線・ガイシなども秘かに整理されています。



表彰された柳瀬さん

目立たない行いでも長く続けることは評価につながるようです。ご本人の行いのある機会に知ることが出来たので、エピソードも含めて紹介しておきます。(平田 広三郎)

● 名を馳せしとんぼう翅に数書かれ
● 続けざまみさし鵜飛び込む秋の海
● 似島の史跡巡りや秋深し
● 人の輪で作る蛙の稲田かな
● 桔梗咲く驚ヶ頭山のおもてなし

2013年・秋の記憶

黒木 隆信

◇ 編集後記 ◇

9月～11月のPV行事は、猛暑、台風など天候不順が続いたにもかかわらず、全て予定通り開催できた。準備・企画した方々のご苦労と参加者のご協力の賜物だろう。今後も無事故で推移するよう祈りたい。(川崎)

瀬戸内海国立公園

宮島地区パークボランティアの会

事務局：環境省 中国四国地方
環境事務所 広島事務所
(〒730-0012)
広島市中区八丁堀 6 番 30 号
広島合同庁舎 3 号館 1 階
TEL082-223-7450、FAX082-211-0455